

## 気管支喘息、咳喘息における胃食道逆流の合併について

国立病院機構福岡病院呼吸器科 野上裕子、庄司俊輔、西間三馨

**【目的】**成人喘息と咳喘息に合併する胃食道逆流をQUEST問診票を用いて診断し、その頻度、症状との関係を検討した。

**【対象と方法】**当院外来で管理している成人喘息患者58例（男性27例、女性31例、平均年齢 $59.4 \pm 15.1$ 歳）、成人咳喘息患者28例（男性11例、女性17例、平均年齢 $57.9 \pm 13.5$ 歳）、過去2ヶ月間に上気道炎の既往がない健常人85例（男性10例、女性75例、平均年齢 $45.7 \pm 6.2$ 歳）を対象とした。QUESTスコアが4点以上をGERD有りとした。また喘息のGERD有り群においては、プロトンポンプ阻害薬（PPI）を投与し、前後1ヶ月のピークフロー値（PEF）を比較した。

**【成績】**GERD有りは、喘息群22例(37.9%)、咳喘息群11例(39.3%)と、健常群15例(17.6%)に比較して有意に多かった。喘息群でのGERD有り群は、無し群に比して有意に若く、より重症であった。GERD有り群でのPPI投与前後のPEF値は変化を認めず、QUEST問診票の点数は有意に低下した。咳喘息群では、GERD有り群と無し群で、平均年齢、換気機能、気道過敏性において有意差を認めなかった。

**【結論】**成人喘息、咳喘息においてGERDは高率に合併し、その病態に関与していると考えられた。